

当該技術の実施医療機関の要件（基本6）

高度先進医療名：内視鏡下甲状腺癌手術（198）	
適応症：手術予後の良い甲状腺乳頭癌	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科、耳鼻咽喉科
資格	要（内分泌外科学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上（助手・術者としてそれぞれ10例）
その他	内視鏡外科学会の認定が望ましい。
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数 注2)	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 （薬剤師、臨床工学技士等）	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科、麻酔科、病理部門）
当直体制	要（実施診療科）
緊急手術の実施体制	要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 （患者容態急変時等）	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（有効性が認められた症例10例以上）
その他	臨床工学技士1名以上の配置が望ましい。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要（10例まで又は6か月間は月毎の報告）
その他	

注1）当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2）医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本6）

高度先進医療名：泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術 (205)	
適応症：泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例、または画像上リンパ節転移が疑われる症例	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	泌尿器科
資格	要（泌尿器科学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上（助手・術者としてそれぞれ10例）
その他	内視鏡外科学会の認定が望ましい。
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数 注2)	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科、麻酔科、病理部門）
当直体制	要（実施診療科）
緊急手術の実施体制	要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（有効性が認められた症例10例以上）
その他	臨床工学技士1名以上の配置が望ましい。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要（10例まで又は6か月間は月毎の報告）
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本6）

高度先進医療名：腹腔鏡下広汎子宮全摘出術（231）	
適応症：初期子宮頸癌	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	産婦人科
資格	要（産科婦人科学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上（助手・術者としてそれぞれ10例）
その他	内視鏡外科学会の認定が望ましい。
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数 注2)	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 （薬剤師、臨床工学技士等）	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科、麻酔科、病理部門）
当直体制	要（実施診療科）
緊急手術の実施体制	要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 （患者容態急変時等）	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（有効性が認められた症例10例以上）
その他	臨床工学技士1名以上の配置が望ましい。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要（10例まで又は6か月間は月毎の報告）
その他	

注1）当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2）医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

7 移植手術

- 脳死肝臓移植手術
- 心臓移植手術
- 生体部分肺移植術
- 膵臓移植手術
- 脳死体からの肺移植手術

当該技術の実施医療機関の要件（基本7）

高度先進医療名：脳死肝臓移植手術（109）	
適応症：劇症肝炎、先天性肝・胆道疾患、先天性代謝異常症、パットキアリ症候群、原発性胆汁性肝硬変、二次性胆汁性肝硬変、原発性硬化性胆管炎、C型ウイルス性肝硬変（細小肝癌を含む）、B型ウイルス性肝硬変（細小肝癌を含む）、アルコール性肝硬変	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科、消化器科 等
資格	不要
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	年以上
当該技術の経験症例数	例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師名以上
他診療科の医師数 注2)	不要 常勤医師名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	要(〇〇師〇名以上)・不要
病床数	不要
診療科	要(〇〇科)
当直体制	要(実施診療科・内科・外科)・不要
緊急手術の実施体制	要・不要
院内検査(24時間実施体制)	要・不要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	要・不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要・不要
倫理委員会による審査体制	要・不要
医療安全管理委員会の設置	要・不要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要(症例以上)・不要
その他	移植関係学会合同委員会により選定された施設であること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要(5例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格(学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本7）

高度先進医療名：心臓移植手術（137）	
適応症：拡張型心筋症および拡張相の肥大型心筋症	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科、心臓血管外科、呼吸器外科 等
資格	不要
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	年以上
当該技術の経験症例数	例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師名以上
他診療科の医師数 注2)	不要 常勤医師名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	要(〇〇師〇名以上)・不要
病床数	不要
診療科	要(〇〇科)
当直体制	要(実施診療科・内科・外科)・不要
緊急手術の実施体制	要・不要
院内検査(24時間実施体制)	要・不要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	要・不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要・不要
倫理委員会による審査体制	要・不要
医療安全管理委員会の設置	要・不要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要(症例以上)・不要
その他	移植関係学会合同委員会により、選定された施設であること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要(5例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格(学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本7）

高度先進医療名：生体部分肺移植手術（139）	
適応症：原発性肺高血圧症、特発性間質性肺炎、気管支拡張症、肺リンパ脈管筋腫症、閉塞性細気管支炎、間質性肺炎、嚢胞性肺繊維症、肺嚢胞症	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科、呼吸器外科 等
資格	不要
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	年以上
当該技術の経験症例数	例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師名以上
他診療科の医師数 注2)	不要 常勤医師名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	要(〇〇師〇名以上)・不要
病床数	不要
診療科	要(〇〇科)
当直体制	要(実施診療科・内科・外科)・不要
緊急手術の実施体制	要・不要
院内検査(24時間実施体制)	要・不要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	要・不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要・不要
倫理委員会による審査体制	要・不要
医療安全管理委員会の設置	要・不要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要(症例以上)・不要
その他	移植関係学会合同委員会により選定された施設であること。(脳死肺移植の実施施設)
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要(5例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格(学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本7）

高度先進医療名：膵臓移植手術（188）	
適応症：インスリンに依存する IDDM	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科 等
資格	不要
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	年以上
当該技術の経験症例数	例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師名以上
他診療科の医師数 注2)	不要 常勤医師名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	要 (〇〇師〇名以上)・不要
病床数	不要
診療科	要 (〇〇科)
当直体制	要 (実施診療科・内科・外科)・不要
緊急手術の実施体制	要・不要
院内検査 (24時間実施体制)	要・不要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	要・不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要・不要
倫理委員会による審査体制	要・不要
医療安全管理委員会の設置	要・不要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要 (症例以上)・不要
その他	移植関係学会合同委員会により選定された施設であること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要 (5例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格 (学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本7）

高度先進医療名：脳死体からの肺移植手術（194）	
適応症：原発性肺高血圧症等、肺・心肺移植関連学会協議会で承認する進行性肺疾患	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科、呼吸器外科 等
資格	不要
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	年以上
当該技術の経験症例数	例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師名以上
他診療科の医師数 注2)	不要 常勤医師名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	要(〇〇師〇名以上)・不要
病床数	不要
診療科	要(〇〇科)
当直体制	要(実施診療科・内科・外科)・不要
緊急手術の実施体制	要・不要
院内検査(24時間実施体制)	要・不要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	要・不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要・不要
倫理委員会による審査体制	要・不要
医療安全管理委員会の設置	要・不要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要(症例以上)・不要
その他	移植関係学会合同委員会により選定された施設であること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要(5例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格(学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

8 医療機器を使った技術（ラジオ波焼灼療法）

- ・ 胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法
- ・ 腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法
- ・ 骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法

当該技術の実施医療機関の要件（基本8）

高度先進医療名：胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法（189）	
適応症：胸部悪性腫瘍（従来の外科的治療法施行が困難か、あるいは外科的治療によって根治性が期待できない胸部腫瘍症例）	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科、呼吸器科
資格	要（呼吸器外科学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上（助手・術者としてそれぞれ10例以上）
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数 注2)	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 （薬剤師、臨床工学技士等）	要（臨床工学技士1名以上）
病床数	不要
診療科	要（実施診療科、麻酔科、病理部門）
当直体制	要（実施診療科）
緊急手術の実施体制	要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 （患者容態急変時等）	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（有効性が認められた症例10例以上）
その他	
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要（10例まで又は6か月間は月毎の報告）
その他	

注1）当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2）医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本8）

高度先進医療名：腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法（192）	
適応症：腎悪性腫瘍（従来の外科的治療法施行が困難か、あるいは外科的治療によって根治性が期待できない腎腫瘍症例）	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科、泌尿器科
資格	要（泌尿器科学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上（助手・術者としてそれぞれ10例以上）
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数 注2)	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 （薬剤師、臨床工学技士等）	要（臨床工学技士1名以上）
病床数	不要
診療科	要（実施診療科、麻酔科、病理部門）
当直体制	要（実施診療科）
緊急手術の実施体制	要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 （患者容態急変時等）	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（有効性が認められた症例10例以上）
その他	
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要（10例まで又は6か月間は月毎の報告）
その他	

注1）当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2）医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本8）

高度先進医療名：骨腫瘍の CT 透視がト下経皮的ラジオ波焼灼療法（202）	
適応症：転移性骨腫瘍で既存の治療法で制御不良なもの、および類骨腫（診断の確実なものに限る）	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	整形外科
資格	要（整形外科学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上（助手・術者としてそれぞれ10例以上）
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数 注2)	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	要（臨床工学技士1名以上）
病床数	不要
診療科	要（実施診療科、麻酔科、病理部門）
当直体制	要（実施診療科）
緊急手術の実施体制	要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（有効性が認められた症例10例以上）
その他	
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要（10例まで又は6か月間は月毎の報告）
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

9 医療機器を使った技術（エキシマレーザーなど）

- ・ レーザー血管形成術
- ・ 経皮的レーザー椎間板切除術（内視鏡下含む）
- ・ 焦点式高エネルギー超音波療法
- ・ OpenMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するYag-Laserによる経皮的椎間板減圧術
- ・ エキシマレーザーによる治療的角膜切除術
- ・ エキシマレーザー冠動脈形成術
- ・ 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法
- ・ 頸椎椎間板ヘルニアに対するYag-Laserによる経皮的椎間板減圧術（CT透視下法）

当該技術の実施医療機関の要件（基本9）

高度先進医療名：レーザー血管形成術（70）	
適応症：末梢動脈および内臓動脈の閉塞性動脈硬化症	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科
資格	要（血管外科学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数 注2)	要 麻酔科1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	要（臨床工学技士1名以上）
病床数	不要
診療科	要（実施診療科、麻酔科）
当直体制	要（実施診療科）
緊急手術の実施体制	要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	不要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（有効性が認められた症例10例以上）
その他	
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要（10例まで又は6か月間は月毎の報告）
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本9）

高度先進医療名：経皮的レーザー椎間板切除術（内視鏡下含む）（86）	
適応症：椎間板ヘルニア	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	整形外科
資格	要（整形外科学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数 注2)	要 麻酔科1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 （薬剤師、臨床工学技士等）	要（臨床工学技士1名以上）
病床数	不要
診療科	要（実施診療科、麻酔科）
当直体制	要（実施診療科）
緊急手術の実施体制	要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 （患者容態急変時等）	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	不要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（有効性が認められた症例10例以上）
その他	
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要（10例まで又は6か月間は月毎の報告）
その他	

注1）当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2）医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。